

September 15, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、4日続伸 持ち高調整のドル売りが広がる

14日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは4日続伸。終値は1.1866ドルと前営業日NY終値(1.1846ドル)と比べて0.0020ドル程度のユーロ高水準だった。対ポンド主導で欧州序盤から持ち高調整のドル売りが広がったことにつれて、NY序盤には一時1.1888ドルと日通し高値を付けた。もっとも、その後はポンドが失速するにつれて上値が重くなり1.1860ドル近辺まで押し戻された。

なお、ジョンソン英首相が英下院で英EU交渉におけるEU側の要求は一部で不合理と述べるなど、強硬的な態度を維持したことが嫌気されて、ポンドドルは1.2919ドルを高値に1.2840ドル台まで上げ幅を縮小した。

ドル円は反落。終値は105.73円と前営業日NY終値(106.16円)と比べて43銭程度のドル安水準だった。対欧州通貨を中心としたドル売りに押され、先週のレンジ下限だった105.80円をブレイクすると一時105.55円まで下げ足を速めた。もっとも、105円台半ばに観測されている買いオーダーをこなせず、一巡後は対欧州通貨を中心にドルが下げ渋ったこともあり105.70円台まで下値を切り上げた。

ユーロ円は4営業日ぶりに反落。終値は125.44円と前営業日NY終値(125.76円)と比べて32銭程度のユーロ安水準だった。ドル円が下落した影響を受けたうえ、その後はユーロドルの伸び悩みや軟調な日経平均先物を横目に125.29円まで下値を広げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円のレンジブレイクは難しいか、英議会によるポンドの動きに警戒

ドル円は昨日の下落で、先週のレンジの下限を割り込んだ。しかしながら、ドル円がここから急に下降トレンドに入ると考えるのも時期尚早だろう。7月31日に104.19円を記録して以後、ドル円は105円前半が底になったことが度々ある。105円台を維持している限りは、投資家も輸出勢も慌てて売りに走ることは考えづらく、むしろ手堅く105円前半で買いを抑えてくる輸入勢や機関投資家も多そうだ。

本日は、自民党総裁選に勝利をおさめた菅氏が、正式に首相に指名される予定だ。本来ならば閣僚指名に注目が集まるが、為替相場にとって最重要な財務相がすでに麻生氏の再任で内定していることで、閣僚指名が為替に与える影響は限られそうだ。ただし、一時的に自民党の支持率が高まっていることで、解散総選挙になった場合、これまでの安倍政権の失政を国民がどう捉えるかにより自民党の優位が変わる可能性もあり、本邦の政治的な動きが為替に与える影響を軽視するのは危険かもしれない。

米国では本日に、著名ジャーナリストのボブ・ウッドワード氏がトランプ米大統領についてのインタビューなどを含む内容を記した新著「Rage(怒り)」が発売される。米国ではすでに大統領が様々な嘘をついていたことが、先週から話題になっている。しかしながら、大統領の明らかな嘘が表面化しても、大統領支持者が不支持に変わることもないことで、当面は余程のことがない限り支持率が大きく変わることはなく、為替市場に直接影響を与えることは少ないか。ただし、内政での失政が暴かれるほど、大統領は外交での成果を表そうとする傾向がある。米国の駐中国大使の退任なども決まり、米国の対中圧力が増大することは考えられるので、米中関係のヘッドラインには常に注目しておきたい。

ドル円はレンジ内のトレードになりそうだが、今日もポンドを中心とした欧州通貨は神経質な動きになりそう。英労働党は国内市場法案を修正することができる法案を提出した。この法案は日本時間の早朝に349対213で否決されたことはジョンソン英首相にとっては一步前進だが、実際の国内市場法案の行方はまだ未知数だ。本日は英国から8月英雇用統計が発表されるが、今週は英国からの経済指標よりも、ブレグジットをめぐる政治的な動きや金融政策委員会(MPC)などがポンドをより動意づけることになるだろう。

なお、アジア時間では9月豪準備銀行(RBA)理事会議事要旨や4-6月期豪住宅価格指数が発表されることで、豪ドルが動意づく可能性は高い。しかし、豪州の最重要経済指標の雇用統計が17日発表されることで、豪ドルも雇用統計までは大きなトレンドを作るのは難しいかもしれない。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 10:30 ◎ 9月豪準備銀行(RBA)理事会議事要旨
- 10:30 ◎ 4-6月期豪住宅価格指数(予想:前期比▲1.0%/前年比6.8%)
- 11:00 ◎ 8月中国鉱工業生産(予想:前年比5.1%)
- 11:00 ◎ 8月中国小売売上高(予想:前年比横ばい)
- 15:00 ◎ 8月英雇用統計(予想:失業保険申請件数推移10.0万件/失業率なし)
- 15:00 ◎ 5-7月英失業率(ILO方式、予想:4.1%)
- 15:30 ◇ 8月スイス生産者輸入価格
- 15:45 ◇ 8月仏消費者物価指数(CPI)改定値(予想:前月比▲0.1%/前年比0.2%)
- 16:15 ◎ パネッタ欧州中央銀行(ECB)専務理事、講演
- 16:30 ◇ 8月スウェーデン失業率
- 18:00 ◎ 9月独ZEW景況感指数(予想:69.8)
- 18:00 ◎ 9月ユーロ圏ZEW景況感指数
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表(予想:0.10%で据え置き)
- 21:30 ◇ 7月カナダ製造業出荷(予想:前月比8.7%)
- 21:30 ◎ 9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数(予想:6.0)
- 21:30 ◇ 8月米輸入物価指数(予想:前月比0.5%)
- 22:15 ◎ 8月米鉱工業生産指数(予想:前月比1.0%)
- ◇ 設備稼働率(予想:71.4%)
- 16日 01:00 ◇ 8月ロシア鉱工業生産(予想:前年比▲6.4%)
- 16日 02:00 ◎ 米財務省、20年債入札
- 米連邦公開市場委員会(FOMC)1日目
- 国連総会開会(ニューヨーク)

16日

<国内>

- 08:50 ◎ 8月貿易統計(通関ベース)

<海外>

- 07:45 ◇ 4-6月期ニュージーランド(NZ)経常収支

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14 日 15:51 菅自民党新総裁
「私には安倍政権の取り組みを継承し、進める使命がある」

14 日 18:35 菅自民総裁
「デジタル庁の設置、法改正に向けて早速準備したい」
「憲法改正に挑戦していきたい」
「解散時期はなかなか悩ましい問題」
「コロナを徹底して収束に持っていく」

14 日 18:55 米国大使館
「ブランスタッド駐中国大使が退任」

14 日 20:47 米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービス
「中国の格付け『A1』で据え置き。見通しは『安定的』」

14 日 21:44 ムニューシン米財務長官
「今は、財政赤字を縮小させることや FRB のバランスシートについて心配する時期ではない」
「ペロシ米下院議長(米民主党)が妥協すれば新型コロナ対策は合意に至るだろう」

14 日 21:50 マクルーフ・アイルランド中銀総裁
「新型コロナウイルスのインフレへの影響を検証中」
「需要の減少が物価の低下につながる」

14 日 22:15 ロシア大統領府
「プーチン露大統領とマクロン仏大統領は、ベラルーシ危機の平和的解決の必要性に合意」

14 日 23:11 レーン欧州中央銀行(ECB)専務理事
「金利が下限に到達したという兆候はない」
「ECB はフォワードガイダンスに満足している」

14 日 23:49 ミシェル欧州理事会常任議長(EU 大統領)
「中国との均衡のとれた貿易関係を望む」
「中国はパリ協定を実行すると期待」
「中国の少数民族の扱いに関する懸念を習・国家主席に伝えた」
「チベットを含めた中国への将来的な訪問を望む」

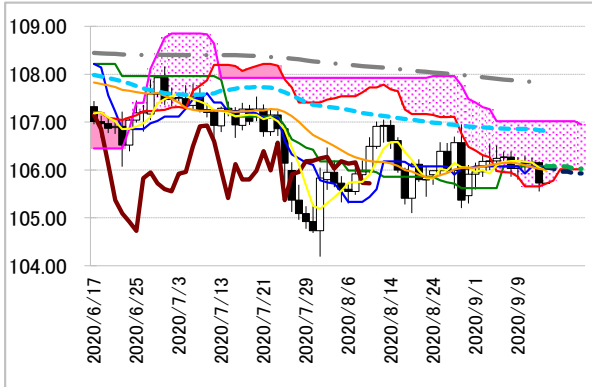
15 日 00:10 メルケル独首相
※習・中国国家主席との電話会談後に
「投資協定の進展を中国に強く求めた」
「中国と公平な競争を望む」
「香港問題について話し合った」

15 日 00:18 トラス英国国際貿易相
「来年には TPP11 に正式な申請をしたいと考えている」

15 日 00:59 ジョンソン英首相
「EU との合意を望むが、EU は英国に対して並外れた脅威をもたらした」
「幾つかの EU の要求は不合理」
「国境が外国勢力によって支配されるのは受け入れられない」
「我々は代替案を考える必要がある」
「国内市場法案を可決することで、通商合意に現実的な可能性をもたらす」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

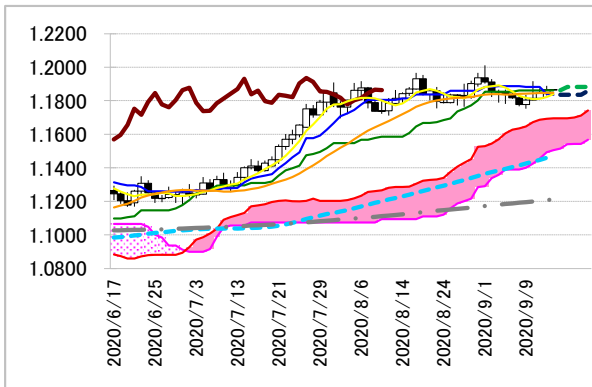


<ドル円=雲下限の攻防>

下影陰線引け。下向きの一目均衡表・転換線や基準線が示唆する下向きの流れを見込んでいたが、想定より下押しが進んだ感があり、一目・雲の下限を試す展開となっている。

本日 105.71 円へ切り上がった雲の下限を日柄の経過とともに下回っていくことが考えられる。雲下限の上昇に沿って戻りを試しても、現在 106.05 円位置する転換線や同じく 106.08 円の基準線が上伸を抑えそうだ。

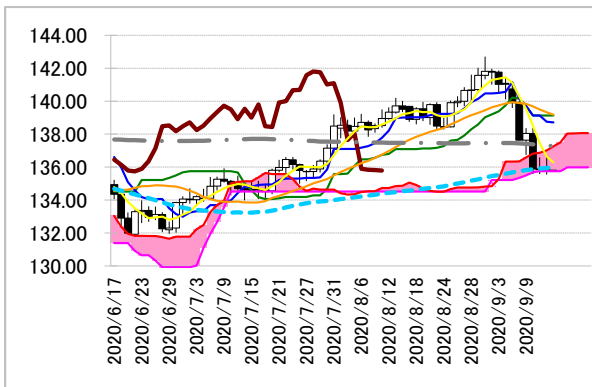
レジスタンス 1	106.08(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	105.73
サポート 1	105.20(8/28 安値)
サポート 2	104.80(8/28 下落幅による N 計算値)



<ユーロドル=基準線付近の底堅さ維持>

小陽線引け。一目均衡表・転換線が 1.1835 ドルへ低下と目先の動きの重さを示唆している。しかし、現状からすれば同線は現水準を底に、来週 22 日には水準回復へ向かい始める公算。一目・基準線 1.1861 ドル付近の底堅さを維持する地合いは、まだ損なわれていない。

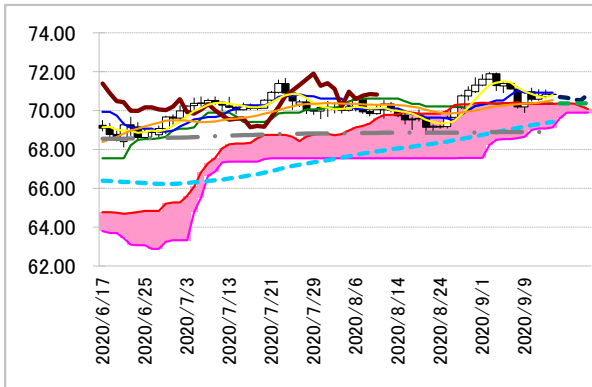
レジスタンス 1	1.1917(9/10 高値)
前日終値	1.1866
サポート 1	1.1801(9/10 安値)



<ポンド円=雲の下抜け懸念>

極小陰線引け。1 日に 2 月以来の高値 142.72 円をで頭打ちとなって以降、調整安が急速に進んだが、135.99 円前後で上昇傾向の 90 日移動平均線や一目均衡表・雲の下限 135.76 円も近くに位置する 136 円付近で気迷いの足型を形成している。雲の中で戻りを試す可能性はあるが、136.28 円前後で低下中の短期 5 日線付近でさえ重そう。雲を下抜け、下値を探るリスクが懸念される。

レジスタンス 1	136.59(9/11・14 高値)
前日終値	135.82
サポート 1	135.00(7/24 安値)



<NZドル円=基準線付近の動向を注視>

小陽線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線 70.92 円は目先の重さを示唆している。支えとなっていた一目・雲の上限が現水準 70.35 円から、明日 70.36 円へ小幅に水準を切り上げるが頭打ちとなり、緩やかに低下していく流れも重し。だが、代わって基準線が横ばいを維持した後、先々のじり高となる見込みである点は支援となる。サポートとなる基準線の下抜けを回避できるか見定める局面にある。

レジスタンス 1	71.53(9/4 高値)
前日終値	70.84
サポート 1	70.37(日足一目均衡表・基準線)

